

へ通3
24/6

六樹園先生閱

石川清澄大人補
蘭齋島北嵩子畫

衆星
閣梓

長門本忠
臣藏
全部
一卷

文化戊辰
辰發兌



序

嘉者ありとてども。食せざれば其味不ぞす。國治るより武士の忠も武勇もあらず。大序の廻よりひさしく破れ中ふ金あり。泥津に蓮あり。人と馬よりいふこと。平う詞由良之助も野堵も。ひさしく役者の仲る。用ふると用ひぬ。とやの饅頭。川とていふ。天徳寺のうと。忠臣藏の一本。

大正五年四月
室井平藏氏贈

よめぬ所^{ところ}は筆^{ふで}を加^くへ。やうく一冊^{いっさく}とらうらう。の陳^{ちん}書^{しよ}
が三國志^{さんごくし}とよめる人^{ひと}の孔明^{こうめい}関羽^{くわんぶ}やうくあまう。け
手づのひの人^{ひと}形^{かたち}とるるハ演義^{えんぎ}とよまざる誤^{あやま}なり。
あ^あのれ古寺^{こじ}古廟^{こびやう}のめりごめとこころ異本^{いほん}ずとのひが
心^{こころ}よりハげふけ書^{かき}ハ孫吳^{そんご}が秘書^{ひしょ}我^{われ}ごめの六韜^{りくたう}三略^{さんりやく}一
別^{べつ}以来^{いらい}めづるやと獨^{ひとり}めづる孫^{そん}重^{じゆう}とるハ風雅^{ふうが}でも
る洒落^{しゃらく}でもなる日本^{にっぽん}一の痴漢^{ちかん}やめみる。

六樹園門人

石川清澄

忠臣^{ちゆうしん}義^ぎは長門^{ちやうもん}本^{ほん}とる新板^{しんばん}かす道中^{だうちゆう}
双^{ふた}た無^な目^めとあつての尺^{しゃく}やうめ有^あ法^{はふ}師^しの婚^{こん}め
月^{つき}三國^{さんごく}一の三平^{さんへい}二滿^{にまん}とるが作者^{さくしや}のたう鼓^こ
狸^りの角^{かく}を流^{なが}種^{しゆ}ぐふが義^ぎ心^{しん}もかきさての
いふみ。毎^{まい}を野^の著^{しやく}の家の謎^めとけくあやめ
まの世^よトあんどな取^とく賜^み物^{ぶつ}の饑^うのう旗^{はた}衣^え
うは時^{とき}月の書^{しよ}初^{はつ}もちのやうなうさで石^{いし}の
いふは苔^{こけ}むすこ株^か七^{しち}無^な事^じ権^{けん}丸^{まる}とる



よ日本のおいぬおれが
やうお男がうらてあ
どとらうてあどあ
のおとまでをひきた
とてうてあ
やう



うてあれがうてあ
一首めかいてうてあ
うてあうてあ
うてあうてあ
うてあうてあ

うてあうてあうてあ
うてあうてあうてあ
うてあうてあうてあ
うてあうてあうてあ



うてあうてあうてあ
うてあうてあうてあ
うてあうてあうてあ
うてあうてあうてあ

芝居の位をいへくま
 けしをえて人がと一まうと
 いひまういひちういひまう
 ふぎりめーをゆつてあ
 めるぞ
 あらうら



めんよさおとさよめおかづであらう
 人ざらやういりやなまういりでも
 よろぞまうのおゆいぬ
 めのさ

男
 奉公人口入所
 女
 新鐙
 戊辰事



おつア 三人のかりうとぢやアねよ

時子幕があらうらう
おゐつてアやう
ぢやア

ねえ



正是老狐魅^ス里正^ラ
不知^レ猫^ニ戸在^ニ後^ニ

とほ
〜〜〜

ふんふん
ふんふん
ふんふん



ふんふん

本舞臺三間のあひだ、其素をづらう、袴が暗
六巻ぐささみうの体、勘平が如腹の習ひふこ
六段目の堅れをみちり。あつわう、練八裡の
角を清三人の禪人、其義を本文の
ころ、事をさるまは、書伏生が傳り
あつぎと、禪田の所、禮が、は、あつぎと、大ま
直傳の正本あつねを、聊音、前、黒、譜を
用ひ、さうを、弾、指、の、あつま、を、の、ま、を、明、せ、て

幕を明せ

長門本忠臣藏

○山ごさ

山ごさの村をづらう。倒とあつり。一軒をあり。金目之神
の現形ありて、安子と志め。宮柱をそくたてたる
煙り。たえく近所の買ひ。あつり。も。さう。ま。の。家
い。塵紙の。やぶと紙帳の。ある。あ。を。三。思。つ。る。ま。じ
すぬひあり。あちう。さ。を。ア。福乃神。三。舎。を
酒で。あ。さ。ら。う。上戸の。ひ。う。ひ。盆。ま。の。い。ひ。け
あ。を。種。が。の。六。巻。と。い。ふ。禪。人。の。亭。主。あ。つ。り。も

くもひる。酔てハ三百六十日。月々子泥田を棒の
ささ。うちをみる。遊びずさるすま油。肉
ぎ。其のお市すぐせんたく。信志ごと。あやぐ夜食の
あさまり。一夜とあづけし盲の子。おそい川の川
の字子。親子三人。床くちでど。見えこぬ果報ぞ
ぢひもある。さみせんひささしせがき。一夜「モシク
あさる。とうらゐる。あぶり。あやう。う。う。う。
のをとつひ出でて。まごめ。どう。あやう。ね。め。
い。あり。あ。を。う。う。う。あ。の玉。な。よ。つ。ま。う。う。

さうぢやらぬ。わんぱだんなあは六。そーが名を
いち^{げこ}下戸と上戸と夫婦はあつても。うらおも
てのちぐひぢやいの。六であゝの六。あんの。
ち^{いちゃ}つといふ一夜でも。肉^{うち}よあゝことへない。イヤ
一夜とおつぢやまば。そーが名を一夜と付あゝと
いふ。あんぞふういふけでもござりやすう。「さい
あら。そのいふこと。瘡癩^{かさらい}が目^めをひつて。
そのとほりあらう。あゝやつこと。十六乃
ろふやどいも心^{こころ}はあゝそのあゝこのろふどうぞ早^{はや}



あせ

出せがさせとく。ア一夜檢校いちやけんぎやうといふこととせむをけん

とくふてけんぎやうと志て見ミる望のぞみど。そきて

一夜とつけと見いの。サア又奥おくのてけけいのこの

むんつきての。さみせんさうや。ドレドレる飯いの志とく

せうかとたすさよあつてさうとく。つぎつきのいの

中道ちゆうだうつと云い筈はずとつと云いおやぢ。みせろすまよも

志をしいやすむと。うとくうとひて主あやの六ろく筈はず

の先さき一行いっけいを白しろい布ぬいまでむすびつけ。踊おどり狂くるひとめり

る。生なま酔よめといふ。いひつとく女房にようばうのお市いちが

かるう級くんでく。茶ちや梳えんり塩しほ入いつめみ。何なにの志しとく

酔よめごまー。ひと口くちのんぞ。あとうらあけ。さう

くありー。うとく酔よめと酒さけさませとい。アあうとく

あ。時ときりおとついの夕ゆふえと。つよいぬとあつと

が。根ねごさぞり。とくあらうな。りつとたん。

市いちおへすりもち。つとく結むすとあつとあ。いの

ふいの。とくとなさん。三日さんじつなり。どらうとまう

と。かさん。とくこれと。大だいの事こととあ。あ

れ。丹波たんばと作さくが。極ごく樂らくい。ぐく。のやと。あひ

といふ人すなとやりとむき。にやとこけのふ
 ひ本性かんしやうこがはず。性しやうねいつの縁と。こいぜんや。ほさけの
 ちひいさめとある。己は八歳。おごうとやついで

ありや。あふのつよついに成た。どうぞせづれの
 市おめつ。つよついに下されと。たのめい糸。そ
 れいさいもひあそぶある。えぐも低はいくち
 ーこの師直招のお屋敷う。いい坐頭があるな
 ら。あつちうはあつちいとめね。あつちうはあつち
 ちうち。せとあつちうなれば。つよついにいんち
 ち招のお屋敷へ出さう。あつち師お屋敷のおあし
 ち。ちうちの子。あつちう。あつち師お屋敷のおあし
 ち。ちうちの子。あつちう。あつち師お屋敷のおあし
 ち。ちうちの子。あつちう。あつち師お屋敷のおあし



糸八があいさつ。六藏のちもまい奥より入り来る。
人のらろのあゝふと。山崎のあゝやと。糸
と家よりくる人の狸の角きくが廿房おとんを
のあまいの家おの長暇がいひーひざりげ。鳥
鋭と腰よりこー行義おまもび。いやりの戸を。
たのみませうくとりあ声り。いすこさづいて
とんぐ出るへ。やむりあるトの女房のおいら。
あうれといひく教をえあのせ。これいゝおさん
る。さあゝところの巻おたり。まこととよそのらん。

あぶさたのーまー。ちとおめり。あうい
やうすよつた。いざゝ糸アまーたど。あやづりけ
とあうそのう。娘ととよび出せん。谷の戸を
ぬ教はう。教鳥むすめのいざうり股頬へきく
て鼻ひく。いろは丹花のらろをふも。あつが
ちんあねがう。のらろ。あの一教をのおやー
さつ。のうらあ。さーやとづう。いも蟲がよー。
サア。これへおとやりとお市があいさつ。狸のお死
ん。ハア。あへうらとやれば。あふういそくむすめ

のお福母^{ふくはは}つれそひ。坐^まはなやれ。おいらちとや
ううらち白^{しろ}ひ。よとゆこのをぐで。おむこい系^{けい}ま
りりあこれ。ふあん清水^{しみず}。ちあん院大佛^{いんたいぶつ}さる
の鼻^{はな}の穴^{あな}い。ずう舟^{ふね}がもひるとりぬ。さんくくるお
んい狸^{ねこ}の方^{かた}い。よいつくが有りそふ事^{こと}といふ
うらみさん行義^{ぎやうぎ}とあつこめ。今日^{こんにち}中^{なかつ}かアーん。
外の事^{こと}でもどごりませぬ。これる娘^{むすめ}お福^{ふく}と西子^{さいし}
息^{いき}の一枚^{いちまい}履^{はき}といひなづけ絞^{しぼ}ーこれと酢^すのらんお
やのと婚^{こん}れも延^{えん}引^{いん}け方もあふんの娘^{むすめ}をやり

おつこー中^{なかつ}ここと。鳥^{とり}銳^{えい}ハ夫^{おとこ}が重代^{ぢゆうだい}これ死^しひき
ぶみよよして。六^む指^{さし}をよもお目^めり。祝^{いわ}言^{げん}
させららつれ。いひなひ日^ひぐもよし
用意^{ようい}あつこれ。下^{しも}りませ。アハ、すいあひ
もよぬ伝^{でん}せ。あふやとさうつ。狸^{ねこ}の方^{かた}の娘^{むすめ}ども
らひませう。あうぐくれうと。いひやそくへやた
れども。貧乏^{びんちやう}りひまがなす。三人^{さんじん}ぐらよもおへま
ますれ。口のあえらおそれる中^{なかつ}。いうりやそ
くならべと。角^{かく}きるぬのおむすめと。娘^{むすめ}よりい

うけましてい。挑灯^{とうてん}うつりぐね。下^げ詰とやえみと。
 その焼味噌^{やきみそ}のびんやう世帯^{せたい}へお福^{ふく}屋と名^なもつ
 王^わめいね^ね此^こよめりりい。愛改^{えかい}しますとすつけと
 心をいやと。いつさんたのみと。さううーこれ^{これ}。
 天下^{てんか}それの一枚^{いちまい}が女房^{にようばう}。おりーろい女房^{にようばう}な
 らば夫^ふがさる。一枚^{いちまい}よめとつーけ母^{はは}がさる。と此^この^{この}山^{やま}のさ
 ぐえのつが焼^{やき}。ありのぬくまぬその内^{うち}り。とつと
 といんづめひませう。とやくといひえな。心^{こころ}
 へだての蔬^もすぐれ。とこと引^ひあけ入りけり。びす

めいつと泣^{なみ}出^で。とされるおが。いつーやまいと。
 すめりなげと。母^{はは}おやの娘^{むすめ}のめやとつぐとら
 らあめく。親^{おや}のよく目^めづ。えとぶさも。おんよ
 とやうこのさうやうあ。頬^ほの饅頭^{まんぢう}團子^{だんご}鼻^{はな}目^めの
 とれまうと。やう声^{こゑ}の鶴^{つる}。けくけくひてい。
 よいん世物^{みせもの}と人^{ひと}の。とらうとさうとつて
 只^{ただ}乃^の人^{ひと}。といせう。あいのづーあれとあ
 る。めくくの女房^{にようばう}が相應^{こうおう}と縁^{えん}とくんぶ一枚^{いちまい}とあ。む
 らふとさびとつてい。さうりーもいそれぬお

市ど。ぶんが高大寺の女のとほり。あんぐさうが
それとやう。そこまおいらの毛せんぢらめ。ナフコレ
ひすめ。今さく通アの男れ性根。さういふあやう
らめ。やーの。坐頭。せけん。山と。やうのめく
らり。とやういふ。こころうり。と返るあや。ど
うぢや。と返る。釈のさういふ。やーの。義や
まふ。母の細い。れい。夏。女。夫。よ。ま。み
えず。こころ。夫。め。く。も。や。ま。ら。は。な。と。い。す
ね。う。よ。目。の。あ。男。と。同。前。り。も。あ。い。す。く。な。い。

め。も。つ。ま。み。ぐ。ひ。と。あ。い。れ。な。こ。ね。ぐ。ー。ま
夫婦の。虎。孝。行。と。ー。女。夫。中。つ。く。あ。い。て。
さ。う。い。ふ。と。や。う。の。お。つ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
う。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
ー。心。り。う。の。ひ。ま。や。ぬ。め。く。と。い。ひ。と。い。ふ。と。
声。を。こ。て。め。く。心。ね。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
涙。の。玉。と。こ。め。お。さ。ー。あ。く。ご。の。て。つ。あ。う。め。う。め。
る。母。と。こ。れ。い。何。と。と。あ。ー。と。い。ひ。れ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。
一。間。の。方。と。ら。め。と。い。ふ。と。世。の。中。の。と。い。ふ。と。い。ふ。と。

いぢのちやつゝい百の洗と。あつつけくやれと
ひふりあり。らりをりふーぐらあひなげんべ。
朝鮮国の女郎のつとめ百の洗のあつりよるぞ
へけ鳥銳とまーく。おいちがつく。あらはけて
やん。そこをえまーやと立あつ。折くひと
の障子とあーあけ。耳ををくつるめつかり絲
ハ。そをりハ六義碎ぐら。枕をぐーく高いび
と。こまーハ鳥銳とりあられ。とりつゝ娘よめも
おけず。一間よむひくおさんかねひ。あらこり

すやんととませる音。取入るやあート乃
六蔵。すつくとくつゝ。今もやせー鳥銳ら。
筒り音あつゝさねりおとまー。ふあんの上の
寐小便。さくハ玉のさそくつがう。あまの
カハととんまのす表のさりどの方「毒いどびこ
くハハ」世の中り。うまとく松のつれなる
らん女房よろとむすめいよめとよあつゝいあ。
といいつゝむる狸の角き。ハ裨時の葉山子
のどく。養うちのさ竹のらの笠ぬぎすて。

あぐくと内へと入るが。ヤアお主人の。この
入と。おどろきこえげバ。ヤア宿の。の。の。の。
ごうくと。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
られよ。狸の角き。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
ありと。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
ひとこーぬ。より。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
る。おどろき。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
うも。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
息。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。

あんな。人。當春鶴。が。国造。の。のみ。の。の。の。の。の。
やめ。の。我。主人。塩谷。判友。高野。師直。よ。の。の。の。の。の。
あつ。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
く。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
ら。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
官。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
れ。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
あ。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
ぬ。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。

おろく大星父子も。おどれべさ。どうそ勘平殿へい
ら。死のたまを主人のあし師直め。うらとめんとお
ども。中をのめ一大変あれい。ううと心底もあらこれ
す。日よりとえあをせよ。あひごう。おれいけな
く勘平殿い。このふと切つて死なひぬ。まむさ
んがう。さうい我のさうらの罪も叶ふ。さう
へりとおつぬれ。あきふらとめうとめう。よ市
きふ殿のあひい。ううとんごう證據とあり。このみ
よ。おれ勘平殿と。ころし。このけい。我あやまり。

朋友お附一義と。うーまい。主人へ忠もた。これぬ
け。あひ生る。さんなけれ。おどさ。いめー。さごぞ
や。とめこれ六。あきふらとめ。一昨年家出さ
れ。い。これ。もあきふらとめ。さういあきふらとめ
殿へ。あきふらとめ。これ。い。う。あきふらとめ
と。う。役とつとめ。これ。と。う。角き。目と
ぬぐい。あ。の。り。い。ん。も。め。ん。や。く。涙。は。く。ひ。細。さ
せ。む。け。ん。べ。武。士。う。い。う。う。二。合。む。さ。ろ。ろ。や。を。い。い
と。び。ん。奴。角。内。と。い。我。本。名。お。公。の。み。と。う。の。を。を。眉

も。やい屋舗はあられ。おるゑの供を。挑灯り。足利屋の。門前。まぐさ。主。人の家のい。ど。ひ。時。も。日。も。平。屋。も。俄。の。宿。な。い。た。づ。さ。も。あ。ぬ。山。崎。村。相。す。み。あ。も。他。生。の。孫。り。と。より。我。と。お。て。ま。へ。ち。い。三。人。お。な。ト。特。人。桃。園。は。義。と。む。す。ひ。智。仁。勇。の。三。福。對。り。こ。の。三。笑。よ。も。あ。こ。み。へ。旁。ら。何。を。本。松。橋。よ。う。と。へ。引。哥。よ。ら。め。り。と。ら。つ。り。ど。や。あ。る。よ。六。お。る。義。心。子。と。う。

石碑料。どういとな。ま。んと。あ。る。如。一。夜。が。み。の。あ。る。五。兩。の。い。は。い。ま。五。兩。と。な。れ。ば。當。惑。の。心。入。こ。つ。娘。お。い。の。嫁。入。一。夜。と。共。は。東。国。へ。は。す。志。の。い。こ。さ。さ。す。れ。は。二。人。が。身。の。あ。る。よ。て。十。兩。の。金。と。の。い。は。い。石。碑。建。立。業。の。内。せ。め。い。す。志。の。忠。義。よ。り。と。お。り。ひ。つ。い。と。角。内。が。心。入。こ。つ。て。孫。ハ。ど。の。お。福。も。つ。れ。と。な。れ。と。も。あ。あ。こ。す。れ。ば。孫。ハ。も。や。ろ。り。あ。あ。よ。が。こ。ろ。く。す。ま。あ。こ。二。人。う。身。の。あ。る。銀。南。隣。と。な。れ。と。あ。り。に。十。九。日。や。五。

おきぐさうきりのおきあーの
 ゆんぐでようぢどぢやくのきー
 とさうさかきぬきあもふいあうちを
 けー
 けいさうの目ぢやア
 ぬんぞ

「しやくとちとーをがけん
 をなげーとおめぢぐて
 だうきゆて
 ちうさ
 かんこ



「おきぐさうきりのおきあーの
 ゆんぐでようぢどぢやくのきー
 とさうさかきぬきあもふいあうちを
 けー
 けいさうの目ぢやア
 ぬんぞ

「おきぐさうきりのおきあーの
 ゆんぐでようぢどぢやくのきー
 とさうさかきぬきあもふいあうちを
 けー
 けいさうの目ぢやア
 ぬんぞ



「おきぐさうきりのおきあーの
 ゆんぐでようぢどぢやくのきー
 とさうさかきぬきあもふいあうちを
 けー
 けいさうの目ぢやア
 ぬんぞ

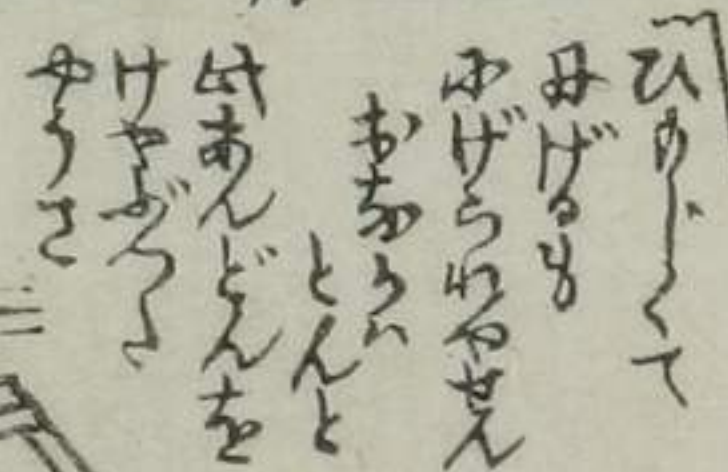
のあるトのたねが尊^{たかみ}ひろい村^{むら}とくつこ二人^{ふたり}
 そのひとり^{ひとり}を奴^{やつ}よりつ一^{いち}おつまりあつこ
 の西國四條のサ杭^{さか}芝居^{しばい}は。惟子^{ただこ}のあつこいんせ物^{もの}よ
 三百^{ひゃく}のいんせつ。そちが身^みの持入^{もちい}の娘^{むすめ}のいん
 ぐ。物^{もの}周^{しゅう}果^{くわ}の娘^{むすめ}が婿^{むこ}をへおひこの目録^{めく}進上^{しんじやう}と。
 こさいらうよりとり出すと一^{いち}おつこいんせ
 した。こころみれどつねにわがおひらうぬよぬお
 ひらけむ。目録^{めく}あるぬ道中^{だうちゆう}双六^{しやうりく}山^{さん}と川^{がは}と宿^{しゆく}とま
 づ。繪圖^{えづ}よくか。のさつてつ。孫^{やま}はとつてあ

一^{いち}のてさ。一^{いち}簀^すをさうとつれ。一^{いち}と六^{ろく}の
 奴^{やつ}の名^なを。つすれず。肌^{はだ}をそなすまの。一^{いち}おのこ
 まあまうん。こく山^{さん}流^{りゅう}せ。とれとと五
 十二^{じふに}次^じをなまう。あひひ。ひざりげ馬^{うま}。そのあい屋^や
 中^{なかつ}六^{ろく}あり。うね。東海道^{とうかいだう}と定め。これ箱^{はこ}根^ね
 八里^{はちり}へる。こ。川^{がは}とつておひら。ど。の。あ。あ
 つ。あ。バ。給^{たま}よ。さん。と。と。た。ま。う。こ。え。と
 孫^{まご}は。う。よろ。ご。ひ。あ。う。ト。の。六^{ろく}。あ。う。う。あ。う。布^{ぬの}ひ。
 す。う。は。行^{あん}燈^{どん}。と。つ。て。あ。う。う。あ。う。夫^そ婦^ふの子^こ。の。り。あ

かゝりなだら。もろむけのけ二品らねうる木綿一丈ハ
せづれ一巻へ振うち。我せこが。犢鼻褌よする
圓石の吉野の山。氷菓ぞ下れ。こが。こが。も長
さい。やそ布。こあんぞーと。な。の。り。く。れ。
又。い。のん。どん。の。姫。女。つ。て。な。む。け。今。より。あ。げ。た。あ
つ。ま。の。を。旅。館。の。寒。燈。ひ。と。り。眠。ら。ず。い。う。け
の。油。を。ず。す。こ。し。腎。さ。よ。や。こ。せ。く。ト。こ。れ。ま。と。
つ。い。せ。ば。う。け。と。る。二。人。の。子。ども。角。き。へ。む。す。め。か
て。み。と。ろ。く。そ。ち。が。な。は。云。の。ゆ。こ。さ。と。高。の。師

直。が。館。ま。れ。バ。ー。塩。谷。家。の。浪。人。と。も。夜。打。と
あ。の。ま。み。ど。れ。入。る。バ。け。ね。が。忠。義。を。う。け。つ。ぎ。
師。直。が。寐。所。ま。ろ。く。そ。ち。び。さ。ー。と。う。こ。せ。て。く
れ。か。あ。い。ぬ。の。ま。な。こ。あ。く。よ。そ。の。夜。打。と
う。ろ。こ。ろ。縷。伴。ひ。と。ろ。は。行。燈。も。つ。と。ん。ご。く
外。あ。る。く。な。又。聲。も。び。つ。り。と。う。ま。い
そ。ご。う。と。盲。こ。が。ー。その。あ。ん。ど。ー。と。う。ぐ。
ず。り。う。ろ。く。さ。よ。ろ。く。ま。ご。つ。い。と。世。上。は。恥。と
の。き。へ。が。名。を。さ。へ。と。て。く。れ。る。ま。と。末。の。末。と

のとろ



あやうきものを
あやうきものを
あやうきものを
あやうきものを



あんどるも蟲がゑする。いまの一言。さてこそ
夜討の騒動。あんどん持とて福とあんば
長く引ずり。盲坊主のけ二人今の世までも
うらー繪よそのおりおげやべのこーられ時刻
うつるとめつやう孫ハ子どもがぬやうに
ちあおれやうねやうのちあおらうやうに
なやととむりやう。あどりをしよの山とて
いまぬらうぞいぢやう。ておひを今をぐん
まつぬ。おやらのえんも。玉とて。さう跡う

灰^{はい}ふきの竹^{たけ}のま^まし^しといと^い子^こま^ます^する^るい^い世^せ
 話^わの救^{きう}の中^{ちゆう}出^いゆ^ゆ足^あり^り蚊^{ぶん}が^がと^とあ^あり^り。
 ゆ^ゆえ^えゆ^ゆえ^えさ^さあ^あや^やむ^む。^うた^たく^くい^い道^{どう}心^{しん}と^と枕^{まくら}あ^ある^る
 あ^ある^るさ^さち^ちん^ん宿^{しゆく}旅^{りょ}の^のち^ちさ^さり^りへ^へ一^{いつ}枚^{まい}と^とお^お福^{ふく}と^とも^もは
 手^ては^は手^てに^に鳥^{とり}が^がう^うく^く東^{あづま}の^の方^{かた}へ^へと^と出^いる^るゆ^ゆ。

長門本忠臣藏

六樹園著
六冊
花彈匠物語

曲亭馬琴著
五冊
標注その雪

春宵
奇談
壁落穂後編
九冊

立川馬馬著
五冊
忠孝潮来武志

於本毒
高野薙刀
二冊

繪
八長門本忠臣藏
一冊

右之本當年出板仕ひる由承沙流のそ下
文化五年辰正月發行
通
村田屋治良兵衛

江都書林
麴町平川町二百
角丸屋甚助板

